

肥前大島港 地方港湾

肥前大島港は、西彼半島の大島に位置し、昭和45年に松島炭鉱大島鉱業所が閉山するまでは石炭の積出港として栄え、昭和48年に株式会社大島造船所の立地に伴い造船の港として発展しています。

真砂地区には佐世保や松島、池島とを結ぶ高速船が就航しており、地域住民の足として重要な役割を果たしています。

また、馬込地区にて進められていた岸壁整備が令和2年に完了したことで、今後の取扱貨物の増加が期待されます。

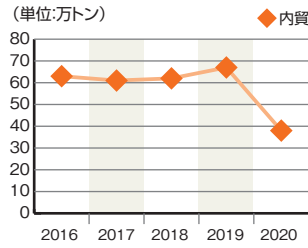


肥前大島港全景



肥前大島港ターミナル

取扱貨物量の推移



埋立工事が進められている馬込地区

位置

港勢(2020年)

| | |
|--------|--------|
| 入港船舶隻数 | 0.5万隻 |
| 総トン数 | 2.2万トン |
| 海上出入貨物 | 36万トン |
| 船舶乗降人員 | 16万人 |

定期航路

| | |
|-------------|--------|
| 佐世保～肥前大島～池島 | |
| 片道 | 56.0km |
| 所要時間 | |
| 肥前大島 - 佐世保 | 0時間30分 |
| 肥前大島 - 池島 | 0時間30分 |

調川港 地方港湾

調川港は、県北土の北部に位置し、周辺海域は対馬暖流や複雑な海岸地形等により好漁場が形成されています。

昭和44年の閉山までは石炭の積出港として栄えていましたが、昭和54年に公設市場や製氷冷蔵施設が設置されて以降、西日本有数の遠洋まき網漁業の水揚げ基地として発展してきました。

令和3年には最先端の「高度衛生化閉鎖型施設」として整備され、衛生面の更なる強化、鮮度保持機能の向上などが図られ、水産品の輸出拡大が期待されています。

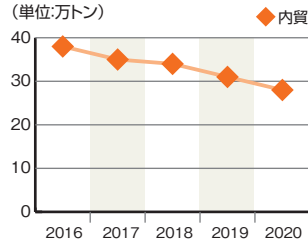


調川港全景



浮棧橋の利用状況

取扱貨物量の推移



市場内の魚選別機

位置

港勢(2020年)

| | |
|--------|-------|
| 入港船舶隻数 | 1.0万隻 |
| 総トン数 | 39万トン |
| 海上出入貨物 | 28万トン |

川棚港 地方港湾

川棚港は、大村湾東沿岸に位置し、古くは有田・波佐見の陶磁器の積出し港として発展してきました。

戦時中は海軍航空工廠の軍用港でしたが、昭和40年代から大村湾北部の商港として貨物ふ頭の整備に着手し、現在の港湾形態を成しています。

平成25年には国道へのアクセス道路が供用されたことで利便性が向上し、企業立地が進んでおります。現在は、廃棄物埋立事業で造成された埋立地において緑地の整備が進められており、地域住民の交流の場としての活用が期待されています。

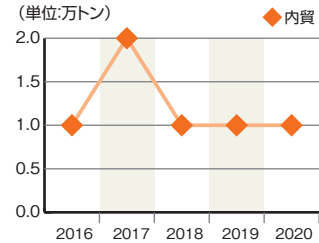


川棚港全景



砂利・砂の荷揚げ状況

取扱貨物量の推移



国道へのアクセス道路

位置

港勢(2020年)

| | |
|--------|--------|
| 入港船舶隻数 | 46隻 |
| 総トン数 | 2.1万トン |
| 海上出入貨物 | 1.3万トン |